

思いやりで支える社会

成瀬小学校

6年

中山

雅菜

私はよく電車で習い事に通っています。電車の中は多くの人々が集まり様々な出会いや出来事が起こります。特に私が最近感じたことは、日常生活の中で思いやりを育める福祉の大切さです。

ある日、いつものように電車に乗り座っていた時、目の前に白杖を持った人が乗車してきました。すぐさま隣に座っていた母が立ち上がり、席を譲りました。すると、白杖を持った人に安心したように、ありがとうございます。とお礼を言われました。この出来事は、思いやりがいかに重要であるかを再認識させてくれました。

福祉とは単に政府や機関が提供するサービスだけでなく、一人一人の小さな行動によって成り立つものだと考えます。電車やバスの中での席の譲り合い、困っている人への手助

け、優しい言葉かけなど、これらの行動が集まりより良い社会が形成されていくと思っています。そのためには、まず自分自身がその一歩を踏み出すことが重要だと思っています。自分ができる小さな行動から始めることで、周囲の人々にも影響を与えられることが大切です。さらに、日常生活での気づきを大切にすると必要だと思っています。自分の周りにどのような人がいるか、どのような状況にあるのかを観察することで自然と思いやりの行動が生

まれるからです。そして最後に、感謝の気持ちをわすれないことも重要だと思っています。自分が助けられた時には素直に感謝の言葉を伝えることで、助けられた人々も嬉しい気持ちになります。このようなポジティブなサイクルが思いやりの心をさらに広げていくと思います。日常生活の中での小さな行動が大きな影響を与え、社会をより良くしていくことに繋がっていくことを忘れずに、これから積極的に思いやりの心を育てていきたいと思っています。